

HEART LESS

DOJIN
R18
成人向け

18歳未満の
購入・閲覧禁止

流石は伏見家様
・・・
今回も上玉じゃ

んじゃ早速
楽しみ……と

助力させて
いただくか

種の仕込みと
関係ねえ事も
教え込んでええ
言うとなつたけど

ほんとかいな

もわぁ…

当主様の
お墨付きじゃ

良え良え
いいいい

初めてのコレ
気になって
しょうがねえか

怖かねえで

舌先で
舐めてみい

ん…

ん…

昨日まで
里で会うても
会釈する
くらいの間柄

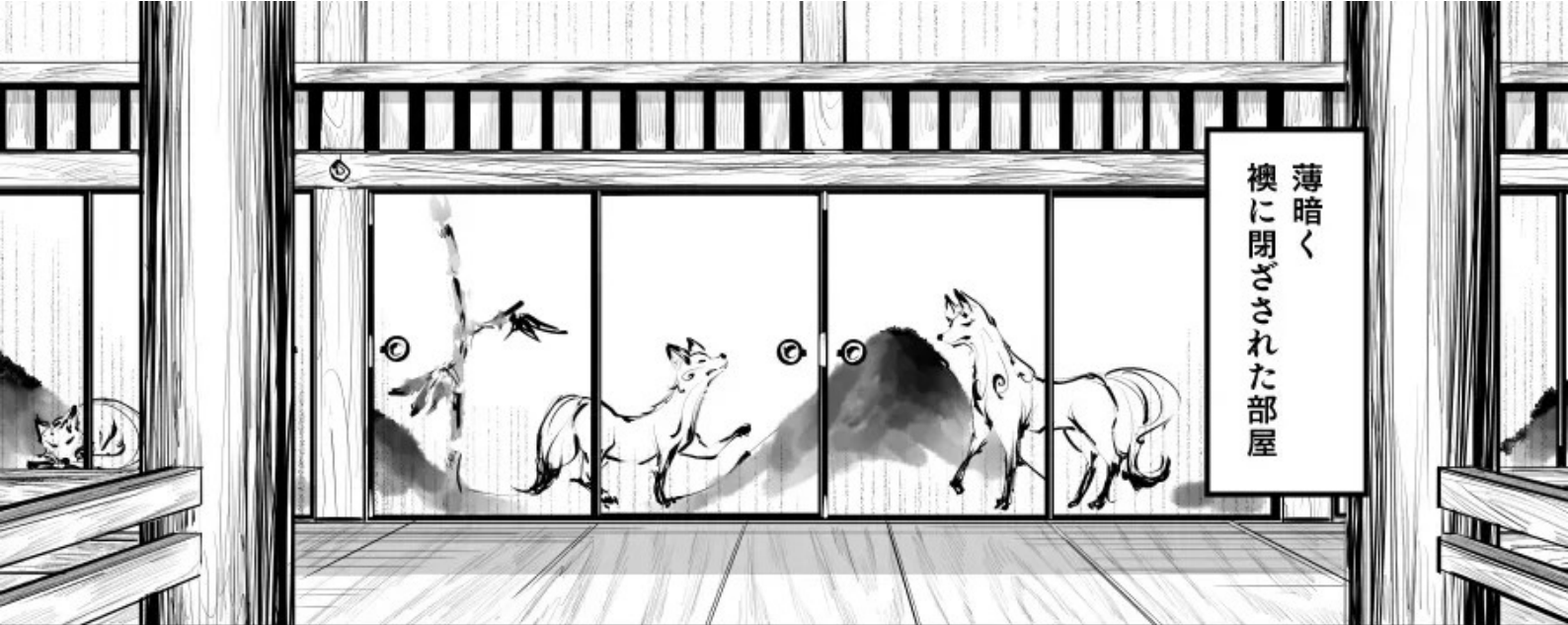
一夜で口淫まで
お願いできる仲に
進展してもうた

ガッ

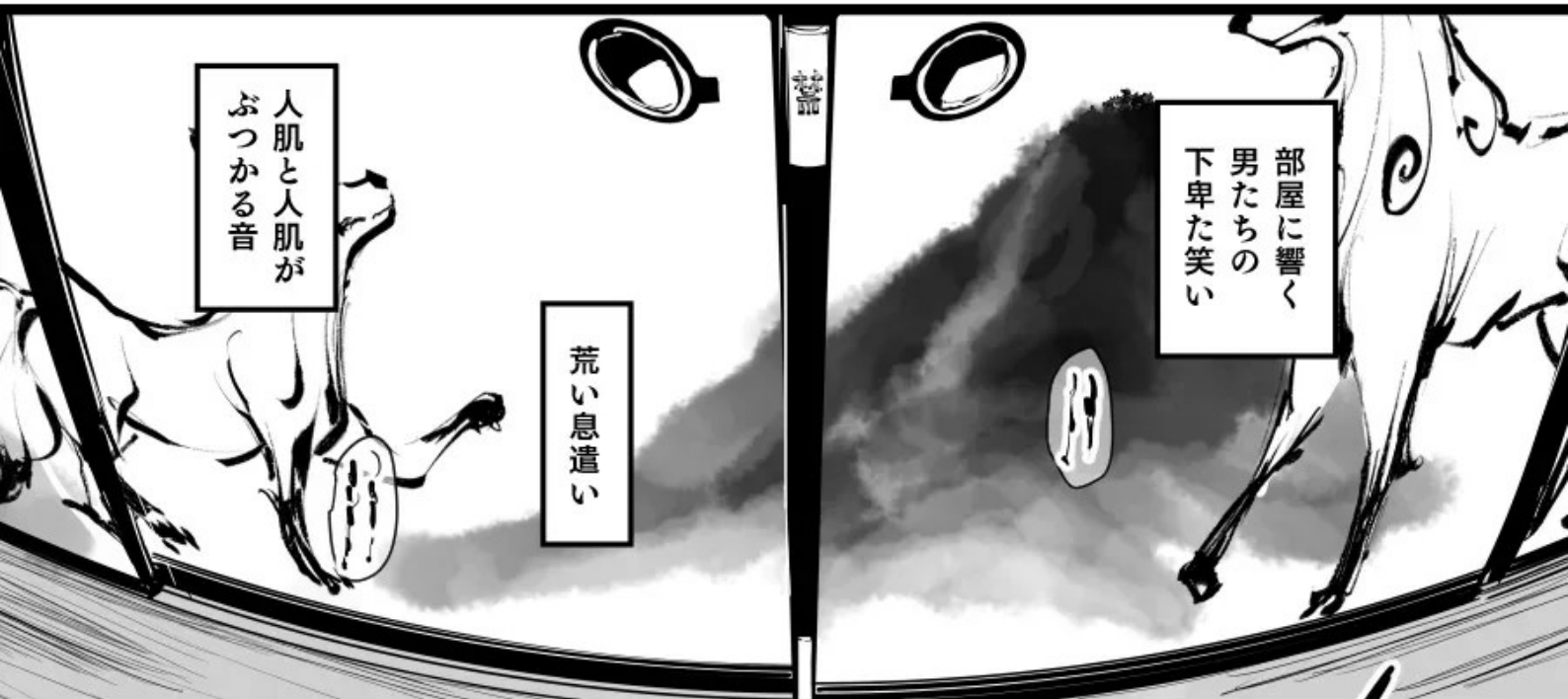
おっと歯ア
氣いつけて
くだされな

ん…

ん…



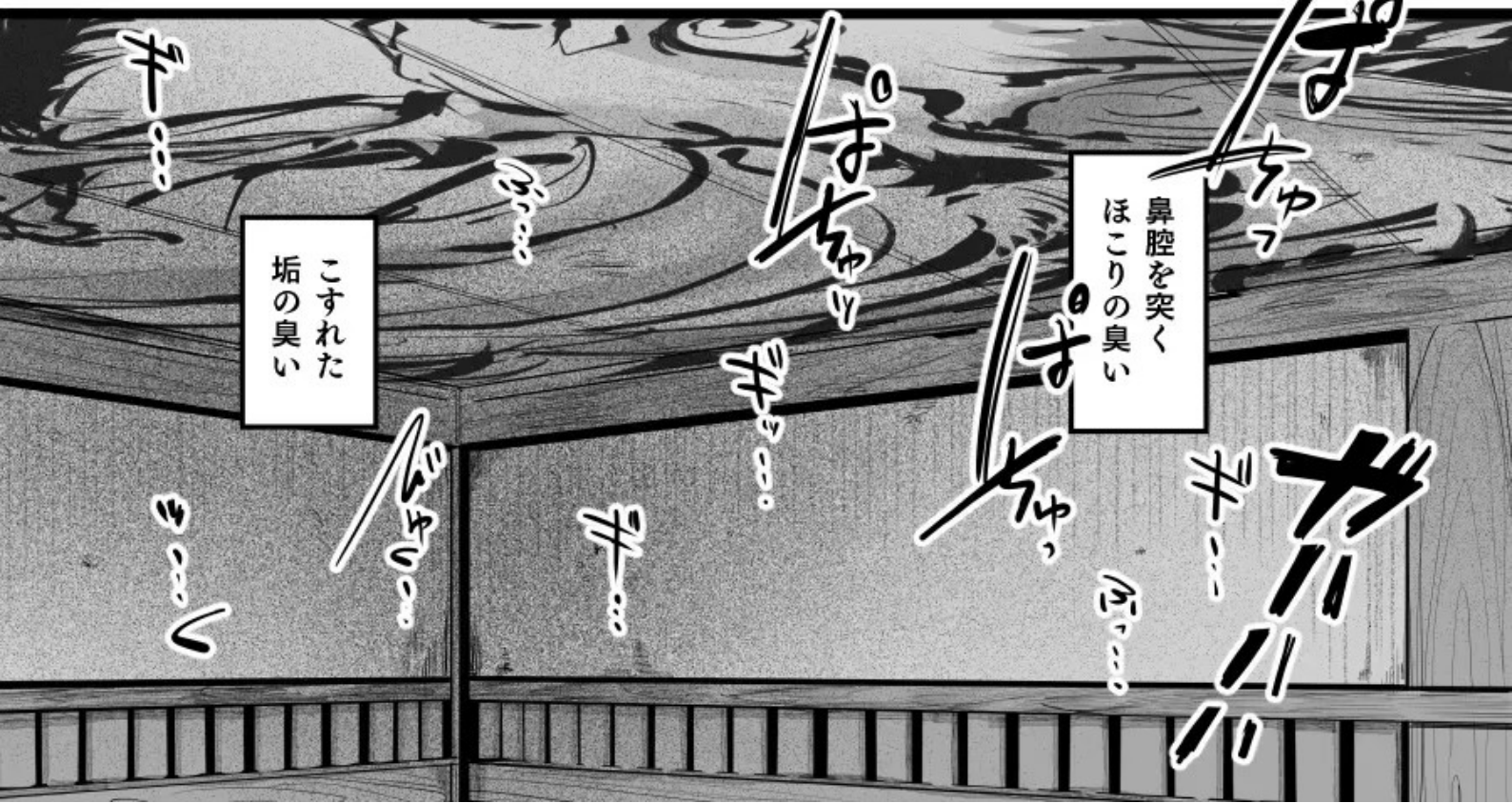
薄暗く
襖に閉ざされた部屋



部屋に響く
男たちの
下卑た笑い

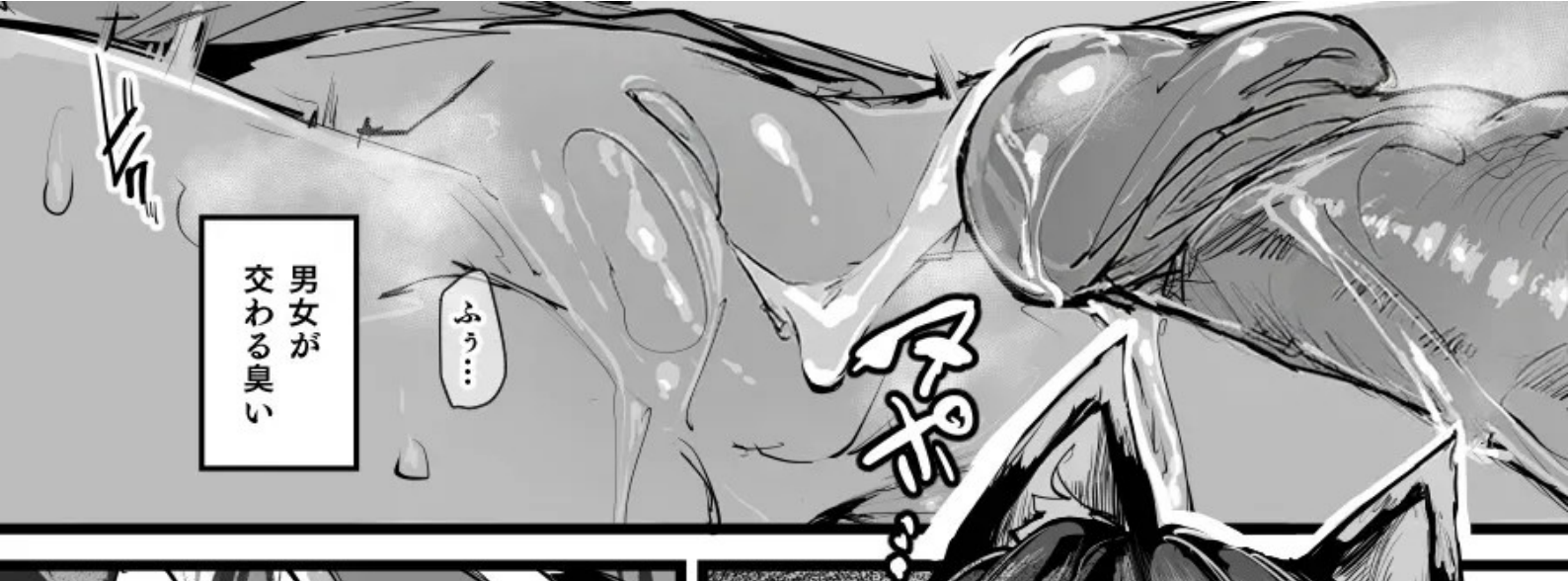
荒い息遣い

人肌と人肌が
ぶつかる音



鼻腔を突く
ほこりの臭い

こすれた
垢の臭い



男女が
交わる臭い

ふう…



この男たちを
競わせ満たす
ためだけの場

そう焦らんと
代わってやるから

へへ…
ひと月ぶり
だからな…



出した
出した

ああ…ここは
蟲毒なんだ

おら
早く代われ

ふん

ふん



私には
・視
・え
・る
の
だ

ふ

この
目隠しの先

しかしまあっ

ふふふ



もうちつと
反応が欲しいがね

ぽん

部屋の
様子も

もう慣れて
きたろうに

面をした
男たちも

ぽん

ぽん



その面の下

恨むなら
俺らじゃ
なくてっ

家を恨みなっ

カオ
どんな表情を
しているのかも



私は生まれつき
特殊な眼を
持っていた



時間だ
来なさい

春の日
私はこの
伏見家に
生を受けた



人ならざる視点



あらゆるものを
見通す千里眼



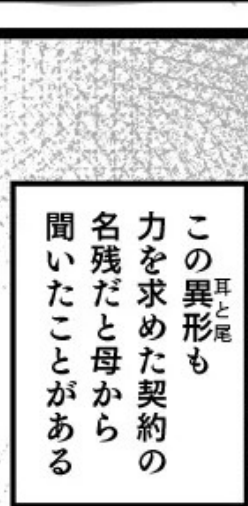
武術と巫術

「強きをもつて
この国
御四季を先導す」

当主である父からは
常に目隠しをし
千里眼を磨くよう
命じられた



父は厳しい人
だったが
母はとても
優しかった



この異形も
力を求めた契約の
名残だと母から
聞いたことがある

母が亡くなった日
私は一日中部屋に
押し込められた

この日だけは
千里眼を使うことを
固く禁じられた

元々持病があった
母は笑って
逝ったのだと
父は言っていた

襖の向こう

私は全部
視ていた

幼心に
この家は
おかしい
のだと
思った

十の夏
あの「準備」が
始まった

皆はもう
集まっている

挨拶しろ

先日^{よむ}齡十となる
日を迎えました

伏見忠宗が娘
伏見千津子と
申します

へへ…
ようやく…

ながらで良い
皆の衆は査定を
始めてくれ

スリ…

スリ…

スリ

スリ



強い子を成す
ため…にはっ
強い子種が
必要で…す



ご存じの通りっ…
この家…では…
強きを重んじます

小そうて
可愛らしいのう

キリエ様を
思い出すわ



乳首も
ピンと上を
向いとる

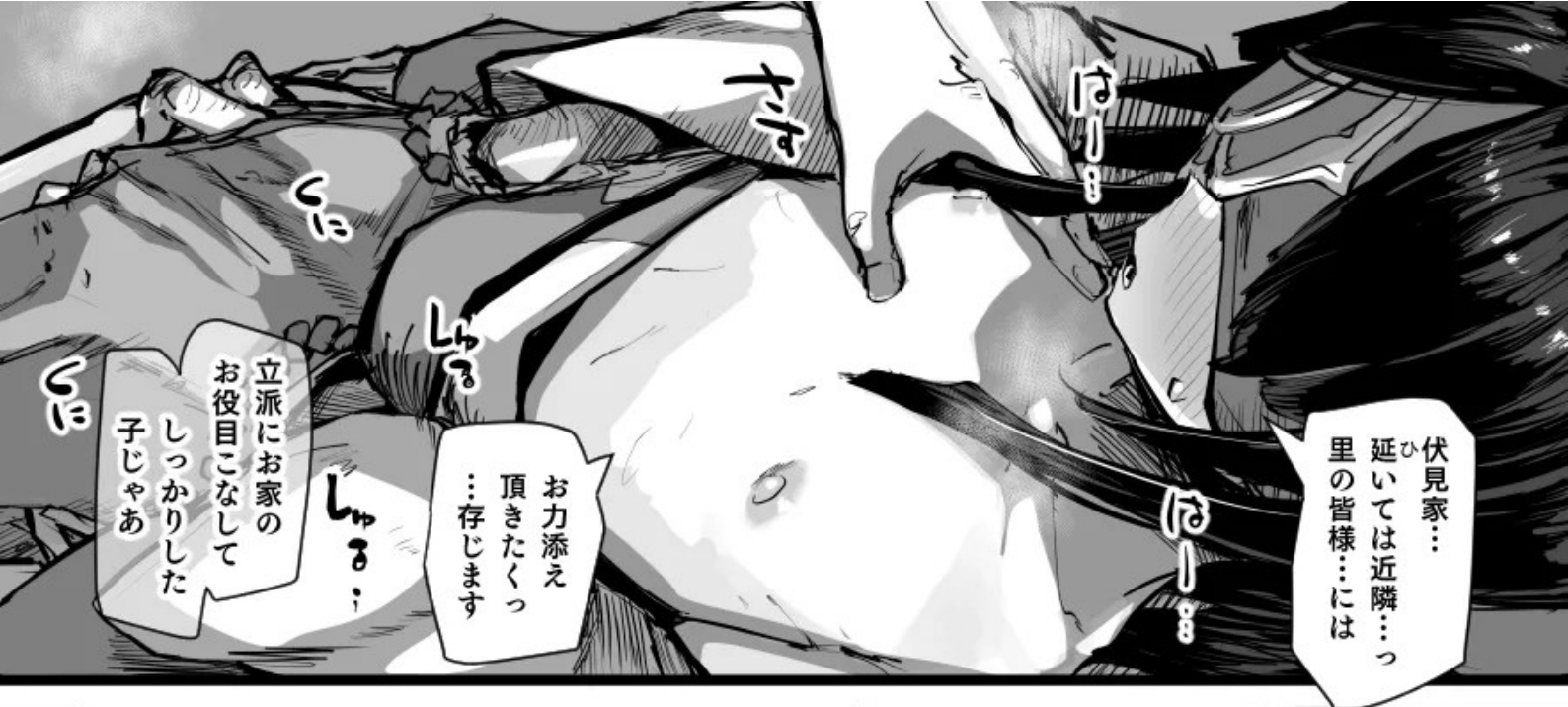
より多く…の
子種の中から
最も優れた個を
選出するため…っ

そげな
怖がらんで
ええ

来たる五っ…年後

十五となる日の…っ
種仕込みに備え…

すぐ良くして
やるでな



伏見家…
延いては近隣…っ
里の皆様…には

お力添え
頂きたくっ
…存じます

立派にお家の
お役目こなして
しっかりした
子じゃあ



こっちは
どうだ？
ん？

…っ！

うはー
柔こいのう

ちと
小便臭えな

こりや
間違いない
男を知らん穴だ

ははっ
んなもん
知っとるわけ
なからうが

これから
知ること
なるけどな

儼らみてエ
なんにも
開放されて

ありがてえ
こった



喉も使える
ように
ならんとな

まだ啜え
きらんだろ

こっちは手で
しごいてみて
くだされ

ぎこちねえが
それが逆に…っ

そろそろ…っ
射精すぞっ

どうじゃ
初めての
子種は？

…美味しく
ない…です…

そかそか
そのうち恋しゅうて
たまらんるでよ

はー！
初心で
ええのう！

まあ最初の
うちは前戯から
じゃのう

んで
処女は誰が
貰うんじゃ

それならもう
決もうとる

今のうちから
よう身体に
染みつけとけ

あーっ
びゅっ
びゅっ

どうよ…

びゅっ

は

は

は





あゝあゝ
そげに中
出しおって

大丈夫
なんか

当主様が
初潮はまだ
来とらん
言うとったな

※
月水がきたら
こうも
いかんくなる

めんどくせえな...

そういう
習わしじゃ
仕方なからう

逆に

※生理。



千津子っ
もう一回っ

もう一回
しようっ

それまでは
好きなだけ
中に出して
ええってこった

ほとほとに
しとけよお
若様



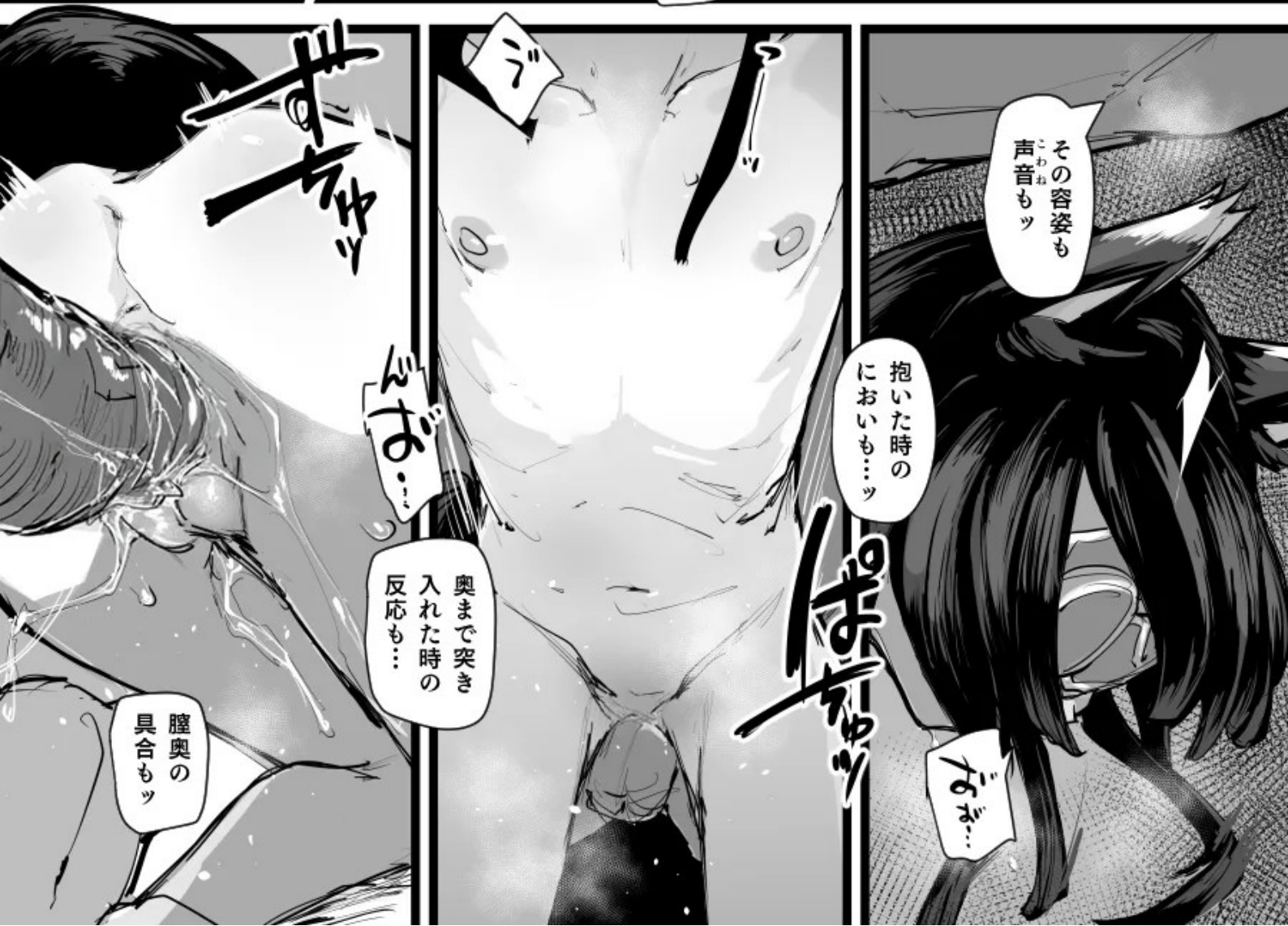
当主である父の
相手をする日は
人払いがされた

いいか
千津子

これが本物の
まぐわいだ

雌を力で
押さえつける
雄の交尾だ...ッ

身体で
覚えろッ...

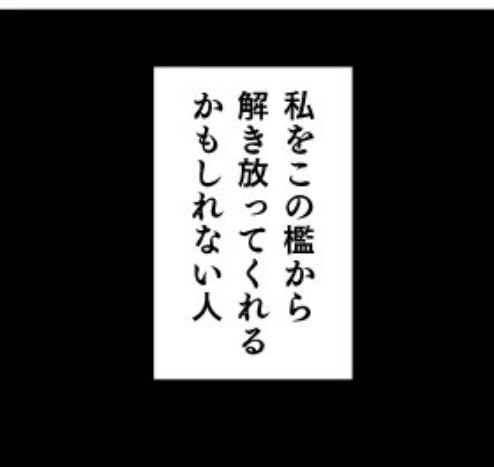
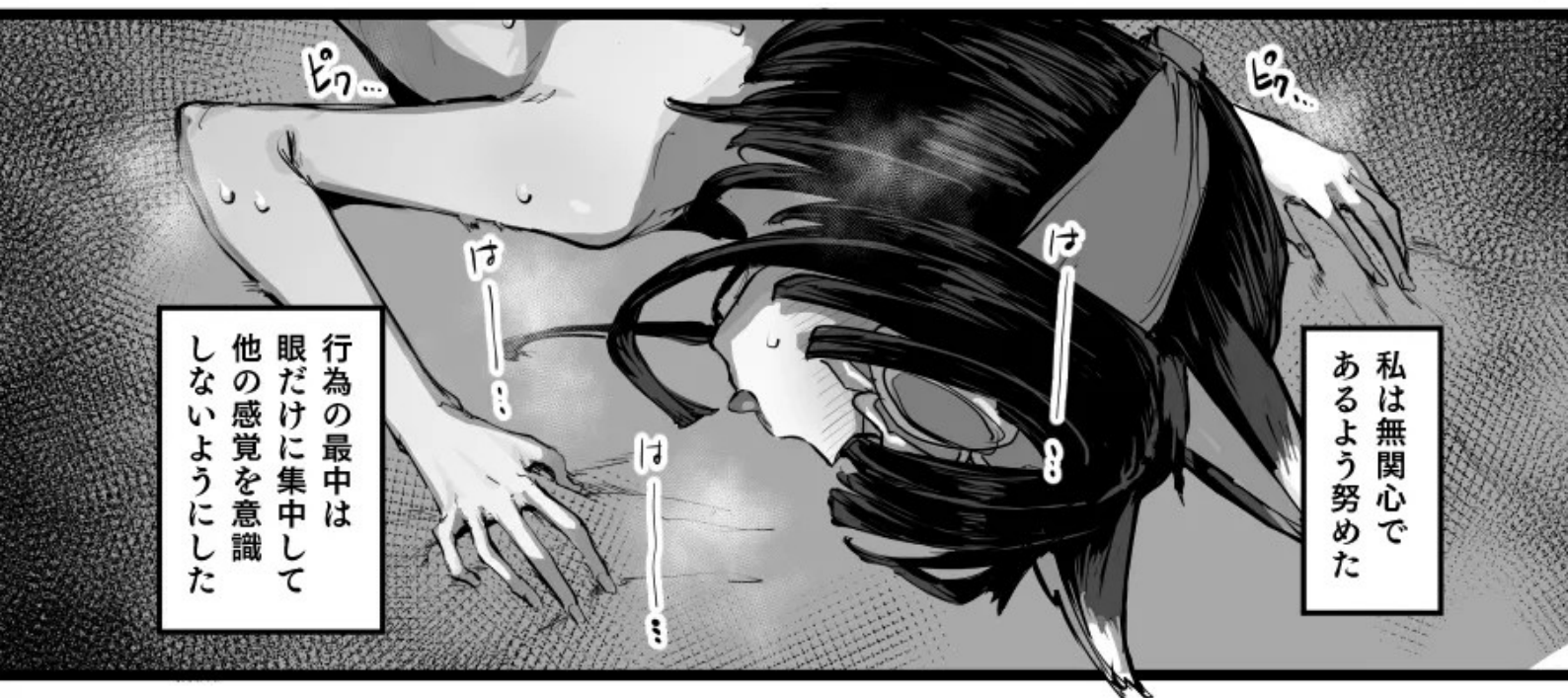
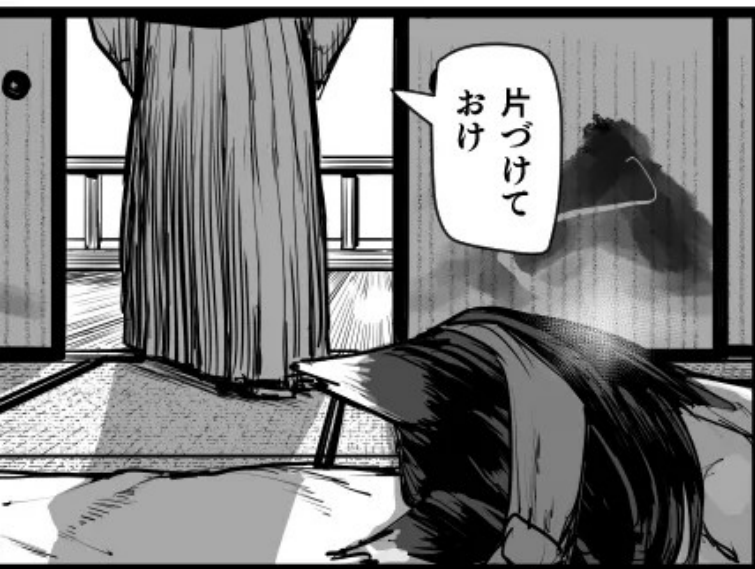


その容姿も
声音もッ

抱いた時の
においも...

奥まで突き
入れた時の
反応も...

臆奥の
具合もッ





叔父は
弱い人だった

兄上！
まだ千津子は
十です！

この家では
落伍者という
扱いを受けていた



私は叔父を
慕っていたし
叔父は実の父の
ように私と
接してくれた



正解！



五…かな



けれど
私の知る限り

この家で
最も温かい
人の心を
持っていた

これは？



母が亡くなって
からは週に一度

父には秘密で
二人で母の
墓参りに行った

母から私を
頼まれたと
よく言っていた



三年が経った
十三の秋

千里眼の噂が
帝の耳に届き
父と共に都へと
呼ばれた

帝は大層
千里眼に
興味を持たれた

千里眼の活用

国の利益

不死の法

仙国

夢魔

飛び交う言葉に
私の出る幕は
なかった

手配された
屋敷への帰路

父は珍しく
上機嫌だった

今晚人と
会うとだけ
言っていた



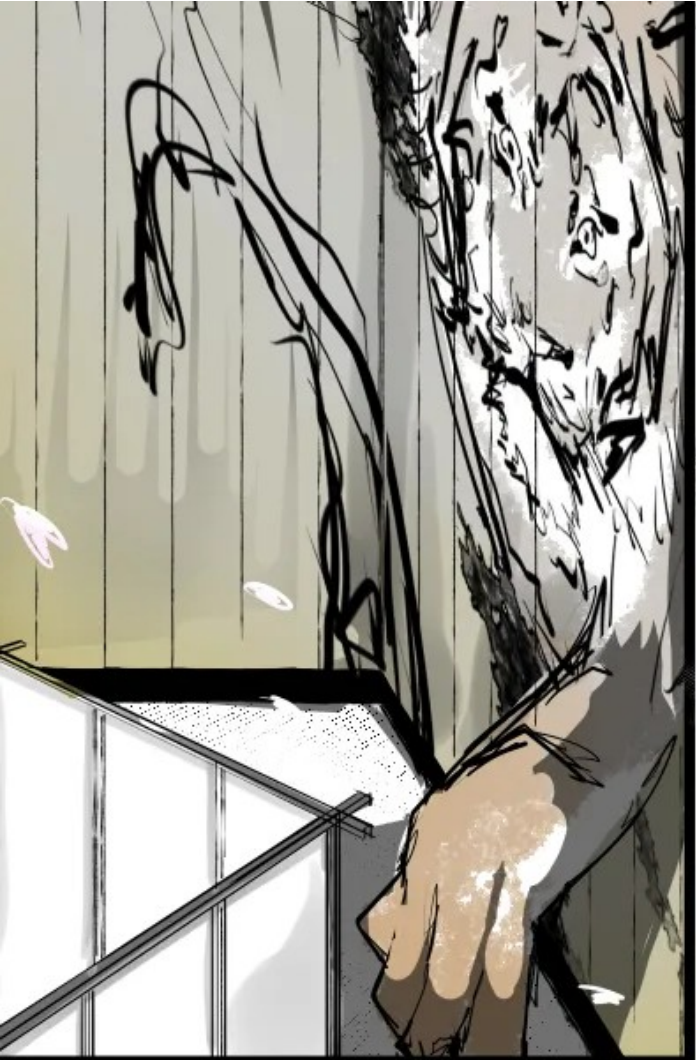




世界で一番
美しいものと

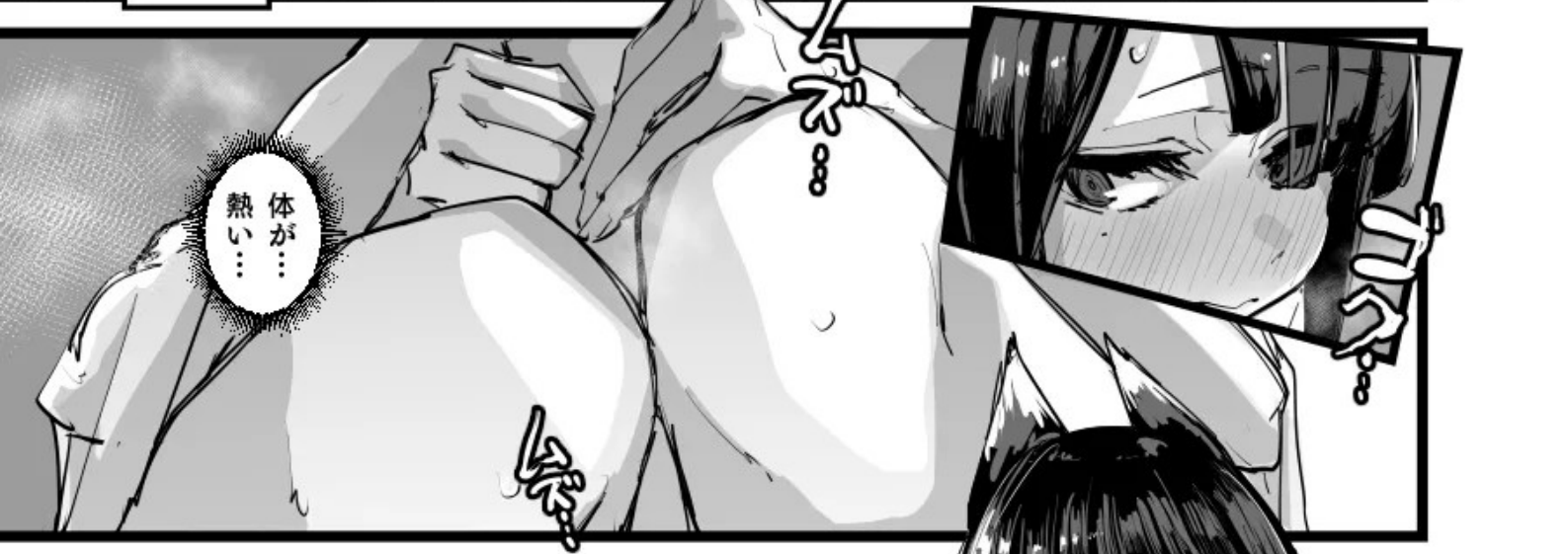
世界で一番
醜いものを

同時に見た



世界は
こんなにも
色鮮やか
だったのかと

そう思った



父はひたすら
女に腰を打ち
付けていた

片隅で自慰に
ふける私に
気づかぬほど
夢中だった

女がこの空間を
支配していた

情けなく腰を
振らされる
父を見る度

ぞくぞくと
高揚感が
背筋に走る

手…
止ま…な…

息を吸う度
色を帯びた芳香に
脳髓を犯される

膣内を
掻きまわす度

今まで拒絶して
きた快楽の波が
押し寄せてくる



抱かれながら
父のすべてを
呑み込むような

深くへと
誘うような
その振る舞いに

私は
憧れを
抱いた

もう一回
だけ……

私の大事な何かを
書き換えていく
決定的な憧れを





ただもう一度
だけでいい

アル



貴女に…

里へと帰って
きた私は

はいえっ
帝への拜謁を期に
目隠しを取る
ことを許された

同時に男たちとの
向き合い方は
大きく変化した

トッ

うほっ

うほっ

うおっ!?

え

その…近頃は
なんだか…

雰囲気が
変わられ
ましたな…

…目隠しを
外したからでは
ないですか?

積極的
になられた
というか…

私は自ら
望んで
ここにいた

うほっ
うほっ
うほっ

儂ら…としては
そっちの
ほうが…なあ!

お、おう!



いえ

少し

あゝあゝ

ののなは
へでつっ
へてひ
ひきふ
はた

うっ...
そこ弱っ...

おゝおゝ

ひいひ知
はまつ
ふすへて

射精るっ...!

あゝあゝ

あゝあゝ

あゝ

あゝ

あゝ

あゝ



この
三年の間

そういや今日も
門の前におっただよ
あの頭のおかしな…

しっ！
曲がりなりにも
当主様の弟君じゃ

自分たちが
満足するため
だけの術を
仕込まれた

下手言わん
ほうがええ

それは
各々が
好む趣向

毎日懲りずに
千津子様の事で
抗議しとらせるが…

今やその
千津子様
御自ら…

そうとも知らず
けったいなこった



千津子……

あに
義兄さま？

義兄さまは……

こういった
趣向のほうが
お好きな
ようですね

ほら……普段より
大きくなって
いらっしやいます

私は
その術を
使い

時に応用し

各々が理想と
する型に私を
はめ込んでいく

ご自分の腹上に
好きなだけ
射精してください

いいですよ

ゆっくりと
時間をかけ
少しずつ
盛られた毒は

もう私の
味方だった

あの夜
あの光景を
見て以来初めて
父と寝た

言葉はあまり
交わさなかった

私に芽生えた
ものとは裏腹に

あの御方なら
どうしただろうか

私の身体は
勝手に何度も
絶頂した

私はあの夜目に
焼き付けた光景を
その身に降ろす

腰を押し付け
足を絡める

より煽情的に

より蠱惑的に

仕草で
実の父を
誘惑する

それに呼応し
父の攻めは
一層激しさを増す

結合部は泡立ち
体液が床を濡らす

それは父が
満足するまで

夜が明ける
まで続いた

その日から父は
母と私を
比べなくなった

父だけ
ではない

まるで
一人一人の
愛人かの
ように

一つ一つの
肉茎に私を
覚え込ませていく

各々の心で
私の存在を
大きくしていく

私は肌身で
感じていた

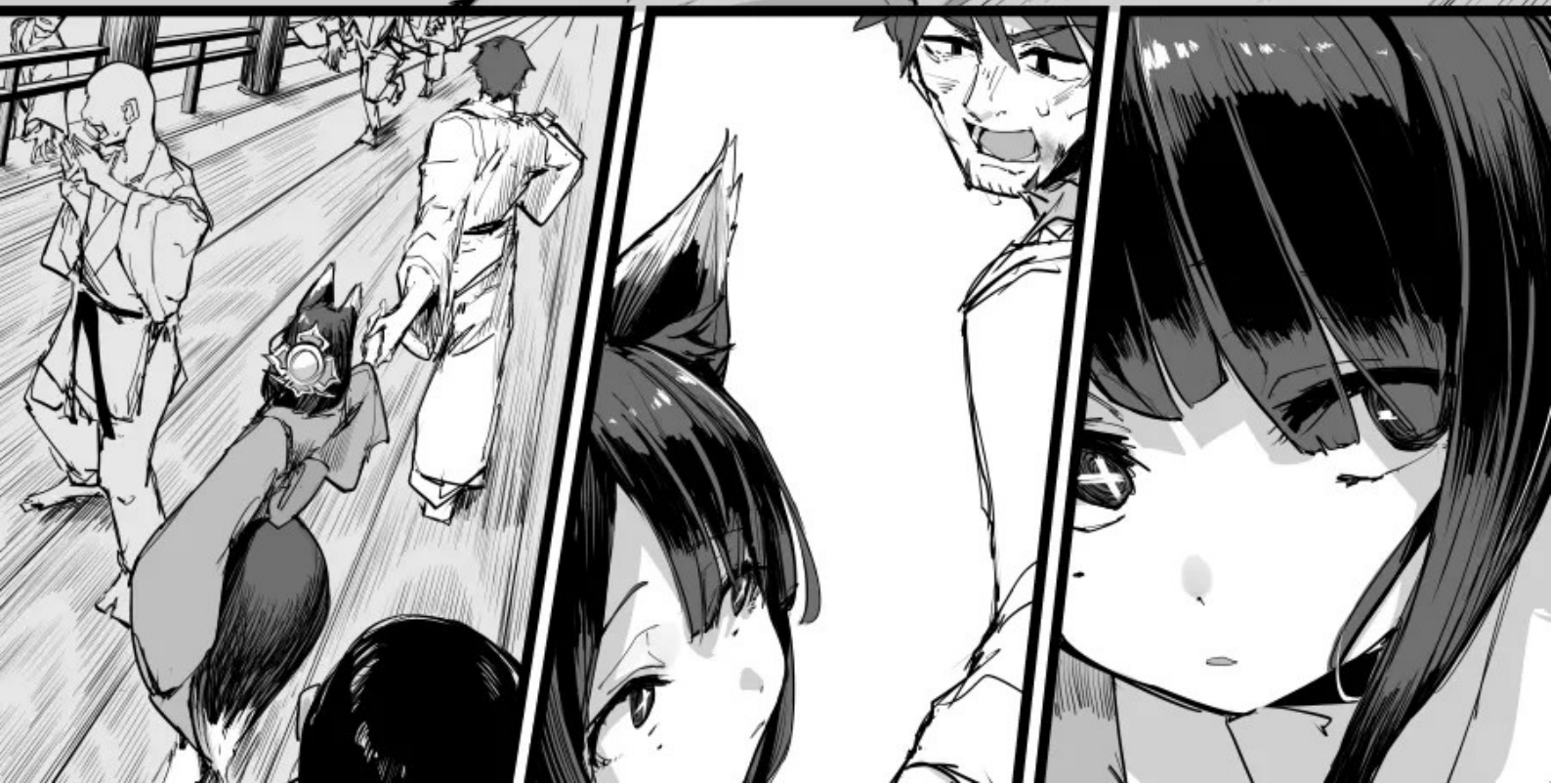
この家の構図が
この部屋から
書き換えられて
ゆくのを...



十四の冬



父が急逝した











トッ

ペタッ

すまない...
驚いて...

ただ...

ペッ

ペッ

お前と...
その...

そういった関係を
持つつもりは...

そっ
それにっ!

俺とお前の
仲なんだから
今更
敬語なんて...

おはっ



何故…
拒むの
ですか？

何故って…
俺にとって
お前は…

実の子の
ような…

そうですよね

本来親と子は
体の関係など
持たぬもの

けれどもう私は
正常な倫理の元には
いないのです

そんなことッ…！

……
そうですね…
困りました

~~お~~ そうだ
では…

もう一度
お聞きます

何故私を助けて
くれたのですか？

私を助けた
かったから？

それとも…











母さまは父さまの
ものになって
しまいました…

アッ

千津子は
叔父さまのもの

アッ

しーっ

準備は
できております

潤滑油で
とろとろに
ほぐれた

もう一つの
雌の穴

叔父さまの
コキ捨て穴に
してくださいませ

叔父さま

はーっ



叔父さまのためだけに

あはっ



素敵…

お気に…召してっ…
ただでっ…っ
何よりっです…



叔父さまのっ…
ものが…っ
肉壁を掻き分け…



下から子袋を…
押し上げッ…



背筋が
ぞわぞわと……

引き抜く度っ

叔父さまを
離したく
ないとっ……

ぴったりと壁が
吸い付いて……

お腹の中ごと
引きずり出されて
しまいそう……



失礼いたします

あ…来る

昇…てくる…

叔父さまの
精液…

注がれていく…



んっ…叔父…
さま？

まだまだ
こんなものでは
ありませんよね

知らなかった…





私が叔父さまの
子を孕むことは
絶対がない

たぶんこれが
最初で最後
になるから



ああ…好き

大好き…
叔父さま…

だけど……

ニヤハハニヤハハ





千津子は...

叔父...さま...

千津子...
その...

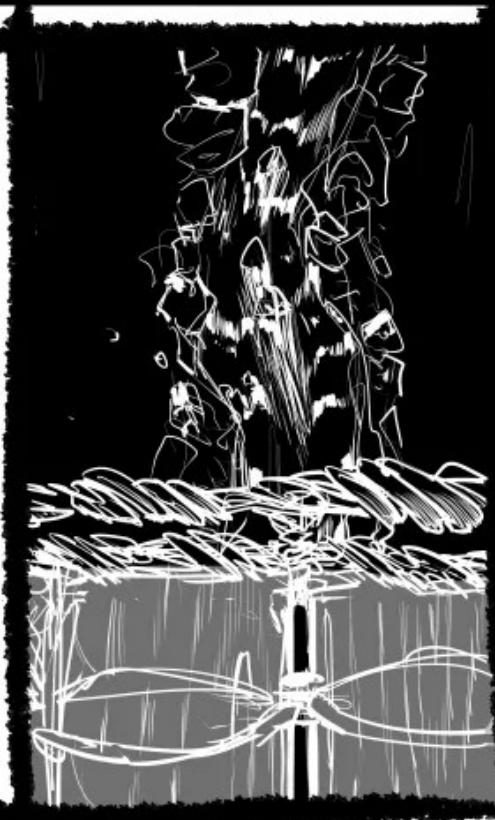
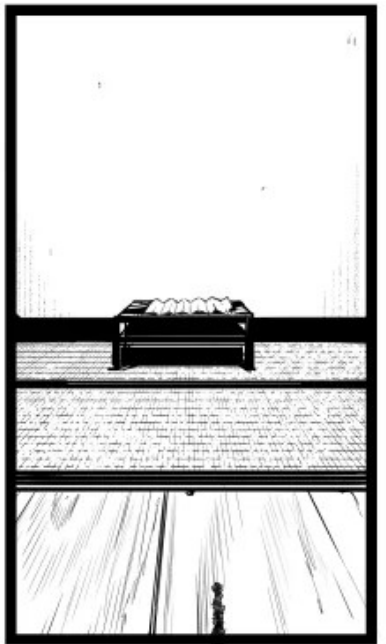
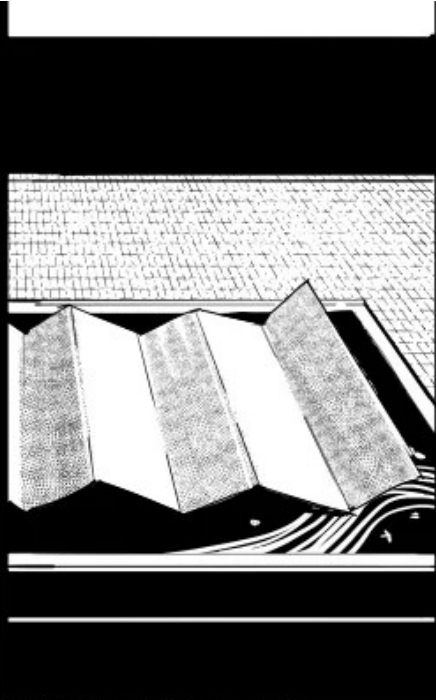
母さまより大事な人になれたかな...

叔父さまの...

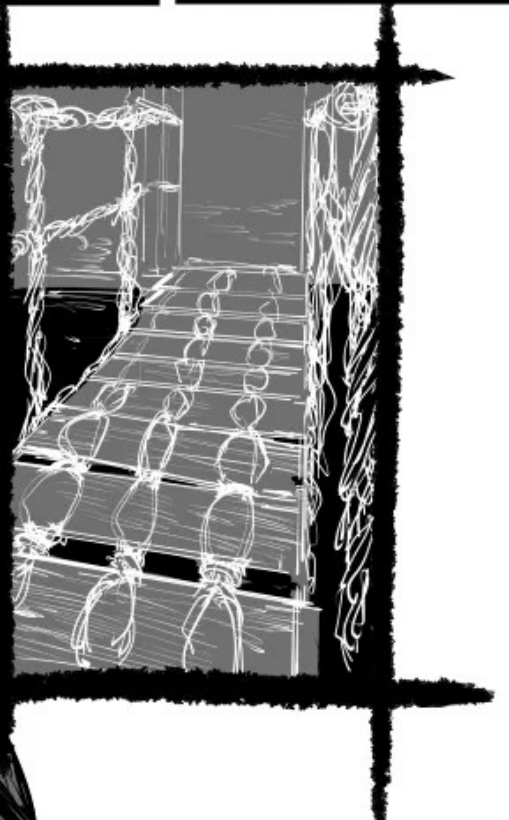
.....



こうなると
わかっていて
誘惑した



こうなると
わかっていて
あの言葉を選んだ



わかっていたはずだ

はあ

はあ



はあ

はあ



今も
脳を焦がし
続ける憧れ

大好きな
叔父と



私の秤は

最後には必ず
好きと憧れを
秤にかける
ときがくる



憧れに
傾いてしまった

なんで
こんなことに

もう叔父さまと
話せない

私が裏切った

正当化するな

抗えない

私は悪くない

ごめんなさい

他の何を

犠にしてい

月に行かなきゃ

必ず成功させる

あの御姿を
もう一度

助けて
もう後に
退けない

最低な女
こんなことの
ために

やめて

生きてて
ほしかった

あの方のように

二人で一緒に

他に方法は
なかったのか



薄暗く
襖に閉ざされた部屋

人肌と人肌が
ぶつかる音

男女が
交わる匂い



ここは
私が望んだ
蟲毒

子種を競わせ
選り抜くため
だけの場



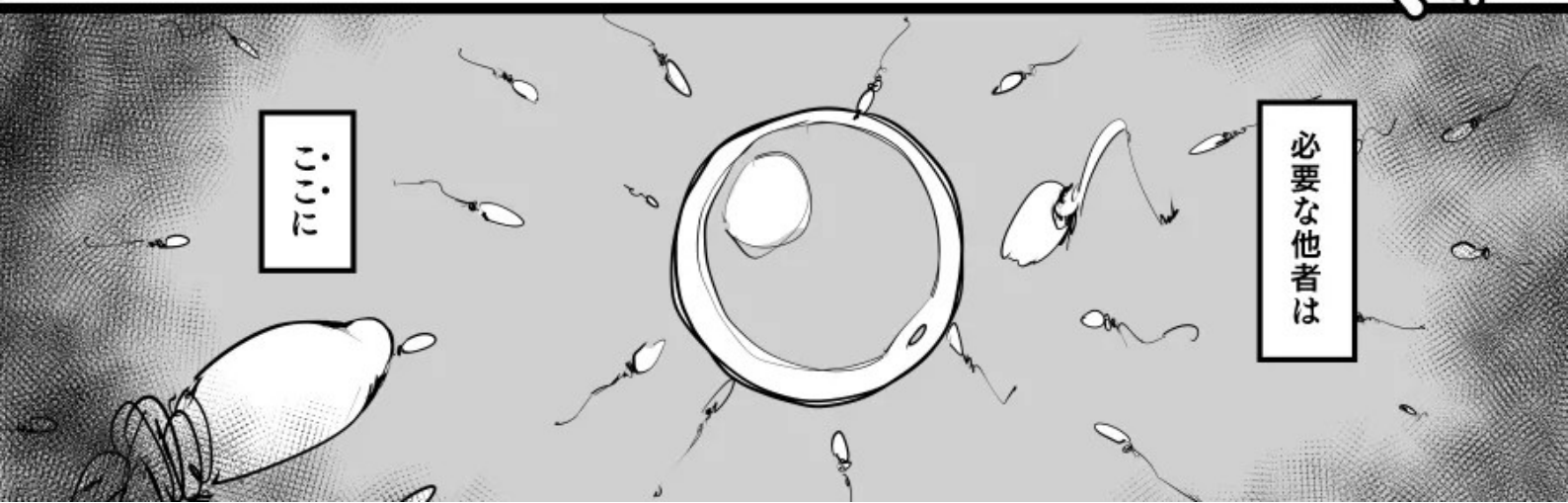
必要な情報は
この眼で集めた



他者の肉体へ
魂を移し
生き永らえる
不死の法



あの日
帝が
謳っていた



必要な他者は

ひん

この家
伏見の呪いは
私だけのもの



どれほど
時間が
かかって

私が月へと
至るまで